

# ゆる〜く理解する、音楽理論.

～モーダルインターチェンジ編～

著：火頭

この書のターゲット

- ある程度の楽典やコード理論の理解があり、ダイアトニックスケールやキーシステムを理解している人
- モーダルインターチェンジを理解していない、あるいは理解が曖昧な人
- 曲は書けるけど、マンネリ化していると感じる人
- 音楽理論書オタクでとりあえず読んでみてもいい人（無料だし）

ここではポピュラー音楽の表記を優先させていますが、クラシック表記も併記します。

# ゆる〜く理解する、音楽理論.

～モーダルインターチェンジ編～

著：火頭

この書のターゲット

- ある程度の楽典やコード理論の理解があり、ダイアトニックスケールやキーシステムを理解している人
- モーダルインターチェンジを理解していない、あるいは理解が曖昧な人
- 曲は書けるけど、マンネリ化していると感じる人
- 音楽理論書オタクでとりあえず読んでみてもいい人（無料だし）

ここではポピュラー音楽の表記を優先させていますが、クラシック表記も併記します。

ポピュラー音楽の作曲テクニックでも比較的使用頻度が高い技法といえる「モーダルインターチェンジ（借用和音）」ですが、皆様はこの技法をどのように理解しているでしょうか？

よく言われるのは、

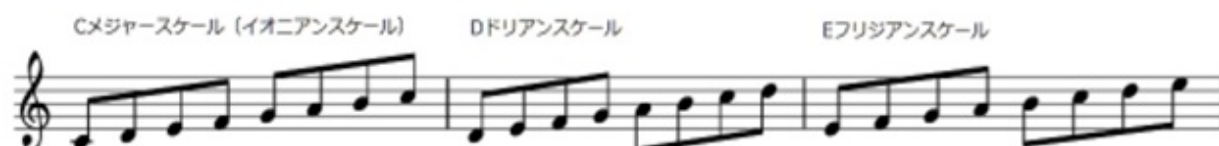
パラレルキー（同主調）からコード（和音）を借りてきて使う、例えばCメジャーキー（八長調）でCマイナーキー（八短調）からコードを借りる等、というのですが、私はこの考え方は間違いではありませんが、正確な理解とは少し違うと考えます。

モーダルインターチェンジとはその名が示す通り「モード」を扱うものであり、数種類あるモードの中に、現代で言うところの「メジャー/マイナースケール（長/短音階）」が存在するのです。

モードについてすごく簡単に説明しますと、クラシック音楽の歴史の中で、機能和声が主流になる前はかなり古い時代に使われていた「教会旋法」を、ジャズミュージシャン達が注目し、利用した音階（旋法）です。詳しくは [Wikipedia](#) をどうぞ。

ジャズやポップスで使われるモードはいずれも、ダイアトニックスケール（長/短音階）の開始音をずらすことによって得ることが出来ます。

例えば、CメジャースケールをD（レ）の音から並べ替えるとDドリアンスケールになり、E（ミ）から並べ替えるとEフリジアンスケールになります。



ダイアトニックスケールには7つの音がありますから、そこから得られる開始音は同じく7つ、つまり**7種類のモード**があります。それぞれにモードを特徴付ける「特徴音」というものがあり、この特徴音 を利用することでモードらしさがある音楽が生まれます。

ex.メジャースケールの並び替えで得ることができるモード一覧。赤いマークは 特徴音 の位置を表しています。

Cメジャースケール (イオニアン)      Dドリアン      Eフリジアン  
 Fリディアン      Gミクソリディアン      Aエオリアン (Aナチュラルマイナー)  
 Bロクリアン

現代で主流のメジャー/マイナースケールとこれらのモードを比べてみると、わずかな音の違いでそれぞれのモードが成り立っているのがわかります。

**この配列の微妙な違いがモードの種類となるのです。**

メジャー/マイナースケールの比較で考えれば、メジャースケールの第7音を半音下げるとミクソリディアンスケールになり、マイナースケールの第2音を半音下げるとフリジアンスケールが出来上がる、と言った風に、音階中の音を一つ変化させるだけで済みます。ですからモードを覚える時は、メジャー/マイナースケールとの比較で覚えると効率が良いと思います。

例えば、...

Cメジャースケール      Cミクソリディアンスケール      Gミクソリディアンスケール

1 2 3 4 5 6 7 8    1 2 3 4 5 6 7 8    1 2 3 4 5 6 7 8

図の赤い四角は半音の位置を表しています。

Cメジャースケールでは、第3 - 4音と、第7 - 8音の間に半音がありますが、CメジャースケールをGの音から並び替えただけの「Gミクソリディアンスケール」では半音の位置が6 - 7番目の間にあることがわかります（7番目の音がフラットしているとも言えます）。

Cの音から音階を開始しつつ、配列をミクソリディアンにするには、メジャースケールの第7音のB（シ）にフラットをつければ、半音の位置が6 - 7番目の間に移る事がわかります。



現代ではCナチュラルマイナースケールと呼ばれる「Cエオリアンスケール」では第2 – 3音の間と第5 – 6音の間に半音があります。CメジャースケールをEの音から並び替えて得られる「Eフリジアンスケール」の配列を模すには、第2音にフラットが付ける必要があります、これで半音が第1 – 2音の間に移動します。

ここで「モーダルインターチェンジ」という言葉の意味を考えると、  
 モーダル=モード的な・モード上の、インターチェンジ=交換、ということになります。  
**「モードの交換」**これです、ただし使用するにはちょっとした条件があります。

モーダルインターチェンジを使う上での前提ですが、  
 それはモーダルインターチェンジは必ず「**パラレルモードを使って行う**」ということです。  
 「パラレルモード」とは、CドリアンとCミクソリディアンのように、「主音」を同じとするモードのことです（どちらも「C」が主音）。これを無視すると、モーダルインターチェンジとは認識されないコード進行になる可能性があります。

もう一つ、あまりコードの役割については踏み込まないつもりですが、基本的にモーダルインターチェンジは同じ属性のコード同士で行われます、トニックの属性のコードの代わりをするのは、やっぱりトニック属性の和音です。そこで良く使われるのが、Key=Cで、Fコードのモーダルインターチェンジとして「Fm」が使われたり「Dm7b5」が使われたり、サブドミナント同士で交換するわけです。これがモーダルインターチェンジを行う時の基本だと思えば大丈夫でしょう、余談があるのですが、それは「おまけ」の項に記します。

実際にモーダルインターチェンジの例を見てみましょう。

ポップスで良く使われるコード進行を一つ。

Key=CM (八長調)



フレーズの終わり等で使われる、ちょっと切なさを感じるコード進行です。

このFmがモーダルインターチェンジなわけですが、どのように考えれば良いのでしょうか？

キーがCメジャーですから、Fmの第三音である「Ab」の音がキーに含まれていません。

そこでこの音を含むパラレルモードを探るわけです。可能性としては、「Cフリジアン」と「Cエオリアン」「Cロクリアン」が挙げられます。



赤線が示す通り、この3つのスケールには「Ab」が含まれていますが、フリジアンモード（スケール）とロクリアンモードは比較的特殊な音階で、フリジアンではフラットされた第2音が、ロクリアンではフラットされた第5音が「特徴音」として特別視されますので、それらが注目されていない今回のコード進行では、「これはフリジアンを使ったモーダルインターチェンジだ！」とか言わない方がいいです。「Cエオリアン」から借りてきたコード、と言うのがすっきりして良いでしょう、しかもこのアイオニアンはマイナースケールですから我々に馴染みもあり、フリジアンとロクリアンには悪いですが、ポピュラリティーが違います。

やっぱりマイナースケール（エオリアン）から借りてくるんじゃない、とか言わないように。まあ「比較的」マイナースケールからの借用が多いのは事実です。

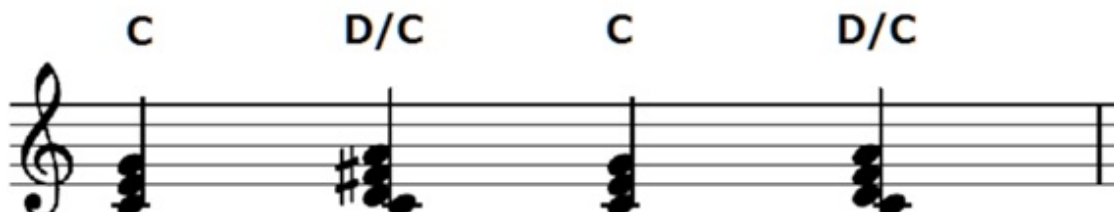
こんなにある！！ エオリアンの可能性。



これらのコードは7thの音を足しても機能します、むしろ7thコードとして使われることの方が多いかと思いますが、ここではトライアドとして紹介しました。

次の例

Key=CM (八長調)



Cの音を低音のペダル（持続音）として使い、上のコードが変わるといったもの、「F#」の音がCメジャーのキーにはありませんから、パラレルモードを洗い出します。すると「Cリディアンスケール」だけがF#の音を持っています。

### Cリディアンスケール



今回はメジャー/マイナーを交換する、という考えだと対応できないところですね。

え？「そのコード進行はキーをGメジャーだと考えれば、IV-Vのバンプだと考えられる」って？そうかも知れないし、そうじゃないかも知れませんね。

音楽は結局の所、聴いた感じで判断するのが一番です。モーダルインターチェンジに限らず、作曲技法には「キーから外れた音を使い、ちょっと違う感じを出す」ものが沢山あります。これらの技法は転調と組み合わせられることもありますし、トニック（基音）がどこにあるかという判断がつきにくくなることもあります。

上のコードも「曲調」によっては、モーダルではなく、普通のポップスだと感じるかも知れませんが「ボサノバ風だな」とか、ゲームに使われる「村の音楽」っぽい、などアレンジ次第で様々な感じ方があると思います。

もう一つ

Key=Cm（ハ短調）



最後がマイナーコードでなくメジャーコードになっています。

これはクラシックでは「ピカルディ3度」と呼ばれていて、とても印象的な終止形です。

「E」の音を求めてモードの洗い出し。「Cアイオニアン」「Cリディアン」「Cミクソリディアン」が候補になります。



ですが、メジャー/マイナースケールが候補に挙がった場合は、そちらを選びましょう。

今回は「Cイオニアン」からの借用、と考えるのが良いと思います。

余談ですが「ピカルディ3度はモーダルインターチェンジだったんだね！」

と考えるのは間違いです。あくまで現代のモーダルインターチェンジの理解を適用させると、そうとも考えられるね、といった程度に留めておいた方がいいでしょう。



ここまでの説明で、モーダルインターチェンジのことがゆる〜く理解できたかと思います。

ですが、調子に乗ってモーダルインターチェンジを連発してはいけません。

例えば、連続して違うモードを使えば、おそらくそれは転調の範疇に入るか、ただ「よくわからないコード進行」とか思われることになるでしょう（それが目的なら別に構いませんが）モーダルインターチェンジはあくまで、一瞬違うモードに「タッチ」し、また戻るから効果的なのです。

実際の曲では、転調やリフやベースラインの優先、クリシェなど、コード進行だけでは判断できない要素が沢山あります。

例えば

Key=CM（ハ長調）

CM7 BbM7 AbM7 G7

このコード進行はどう考えるのでしょうか？

「またエオリアンからの借用じゃん」

「いや、Gを目的地と考えてのフリジアン的進行だよ」

「小賢しい7thを外せばロックだよ」

「スパニッシュね」

まあいい加減なもんです、少なくとも私にはどれも（比率はありますが）理解できる意見です。普通は曲の一部のコードだけ見せられても判断できないですし、前述の通りアレンジ次第です。あまり理論にとらわれて頭が固くならないようにしましょう。

その便利さから、メジャーキーで「エオリアン」からの借用、マイナーキーで「イオニアン」からの借用、というのが「モーダルインターチェンジ」の全容であると思いがちですが、それでは「モーダル」を名乗るには少しばかり足りません。気兼ねせず、どのモードからも自由に借りて来ましょう、ただし、曲にとって必要でなければ借りる意味はありません、曲の方向性を見極める感性は、継続して磨き続ける必要があります。

おしまい

---

### ～おまけ～

ボツネタや、原稿を書きながら思いついたことをいくつか列記

・「モーダルインターチェンジ」という名称ですが、地域によっては「モーダルエクステンジ」だったり「モーダルミクスチャー」だったりします。別になんでも良いと思いますが、モーダルインターチェンジがかなり優勢。ちなみにフリジアンドミナントスケールとかリディアンドミナントスケールとか勝手な名称がどんどん増え、使われているのにはウンザリしています。まあプレイヤーが感覚的に理解しやすいだとか、「シャープイレブンス」が言いにくいとか、なんとなく分かりますけどね。

・モーダルインターチェンジはあくまで「モードを借りてくる」のが本来ですから、前述したように「役割」だけでコードを選ぶのが正しいわけではありません。例えばKey=C で「G 7をモーダルインターチェンジしたいんですけど、．．．」って言われた時はどうすれば良いでしょうか？

まず、G 7をモーダルインターチェンジするというのが微妙。例えば「ミクソリディアンの雰囲気欲しい」だとか目的が先にあるのが正しいあり方だと思います。G 7の代わりに「どんな雰囲気欲しいのか」これがあれば、もしかしたらディミニッシュコードで足りるかも知れませんし、ミクソリディアンのハマるかも知れません。

・アドリブの中でモーダルインターチェンジを使えないの？とか聞かれますが、まずはコード進行と相談しようね、と言います、メロディとコードは切っても切れませんから。

ノーコードだとか、比較的アドリブ自由度の高いコード進行あるいはアレンジ、思い切ってコード進行ごと変えちゃう、など可能性はもちろん大いにあります。既存の曲を「一部モーダ

ルインターチェンジでリハーモナイズしちゃえ」ってやってもメロディがぶつかって出来ない  
こともありますし、メロディごと変えても納得できることもあるでしょう。

・アドリブでもう一つ、モーダルインターチェンジ以外の技法でも言えることですが、  
パッシング的・装飾的な音使いの中では、これはモーダルインターチェンジだと判断できない  
場合もあります。ブルーノートはモーダルインターチェンジなのか？っていうね、  
私は「別にどっちでもいいんじゃない？」って答えます。

・ゲーム音楽にはモード音楽が多い。ジブリとかファイナルファンタジー世代だからそう感じ  
るのかな？実はBGM系のモード音楽は作曲が楽なのでいやげッげッ

・ロクリアンモードは断然知名度が低い（スケールじゃなくてモードね）、映画音楽で有名な  
ロクリアンの曲があったけど忘れた。

・各モードの固有音のことを〇〇ピッチと呼ぶのは分かりやすく良いと思うけど、採用され  
てるのかな？

ex.

マイナーキーで使うナチュラル6th=ドリアンピッチ

メジャーキーでのb7th=ミクソリディアンピッチ（これは長いな）

ただし、状況によっては「ナチュラル6th」や「#11th」というテンションでの呼び方が良  
いと感じますし、なにより「プレイヤー達がわかりやすい」というのが最優先されるべき。ガ  
チガチのモード音楽ならテンションの呼び方をするのに違和感を感じるかも知れません。

<著者プロフィール>

「火頭」

クラシックギタリスト。エレキギターは練習中。

アコースティックユニット「KaMu」（カミュー）として活動後、「火頭」として活動を開始。

クラシック名曲のギターアレンジや音楽関連の書籍を公開している他、

ロック/プログレ系アルバムの制作を目論んでいるが、こちらは万年制作中。

ご質問・ご要望はこちらまで：hiatamaworkshop@gmail.com

著者ブログ：<http://hiatama.blog.fc2.com/>

Twitter:hiatama84

このデータ・および印刷物の無断配布は別に禁じてません。

© 2012 Hiatama Workshop